

# 化学の基礎

## 元素記号からおさらいする化学の基本

### 正誤表 (第1刷)

前見返しの周期表 凡例

- (誤) 原子記号            (正) 原子番号  
(誤) 元素番号            (正) 元素記号

#### 第1章

p.8 15行目

- (誤) 原子番号を $Z$ , 原子のもつ陽子の数を $N_p$ , 中性子の数を $N_n$ ,  
(正) 原子番号を $Z$ , **質量数を $A$** , 原子のもつ陽子の数を $N_p$ , 中性子の数を $N_n$ ,

#### 第2章

p.23 図2.7の説明

- (誤) 2個のフッ素原子の非共有電子対が共有電子対を作ることにより  
(正) 2個のフッ素原子の**不對電子**が共有電子対を作ることにより

p.25 例題2.10 【解答】(4)

- (誤) C                    (正) Cl (4カ所)

p.27 章末問題5

- (誤) イオン化エネルギー ( $\text{kJ} \cdot \text{mol}^{-1}$ )    (正) イオン化エネルギー /  **$\text{kJ} \cdot \text{mol}^{-1}$**   
(誤) 電子親和力 ( $\text{kJ} \cdot \text{mol}^{-1}$ )    (正) 電子親和力 /  **$\text{kJ} \cdot \text{mol}^{-1}$**

#### 第4章

p.45 図4.8の説明

- (誤) ここで示した構造が連続的に続いていっている。  
(正) ここで示した構造が連続的に**続いている**。

#### 第5章

p.51 図5.2の説明

- (誤) 分子量の計算手順    (正) 分子量の計算手順 (**エチレン $\text{C}_2\text{H}_4$ の場合**)

## 第6章

p. 61 25行目

(誤) 式(6.10)は $n$ から $V$ へ変換する場合に、式(6.11)は $V$ から $n$ へ変換する場合に用いる。

(正) 式(6.11)は $n$ から $V$ へ変換する場合に、式(6.12)は $V$ から $n$ へ変換する場合に用いる。

p.61 27行目

(誤) 液体や固体のモル体積 $V_m$ は、密度 $d$ の値がわかっているならば、式(6.7)より算出できる。

(正) 液体や固体のモル体積 $V_m$ は、密度 $d$ の値がわかっているならば、式(6.10)より算出できる。

p.63 7行目

(誤) 式(6.2),(6.6),(6.11)より、次式が成立する。

(正) 式(6.2),(6.6),(6.12)より、次式が成立する。

## 第8章

p.82 16行目

(誤) ~~未定係数法による~~化学反応式の作り方の手順を、図8.2に整理する。

(正) 化学反応式の作り方の手順を、図8.2に整理する。

p.83 図8.2の説明

(誤) 未定係数法の手順 (正) 化学反応式の作り方の手順

## 付 録

p.99 図A.1の説明

(誤) 最終的な計算結果は37.4 mとなる。(正) 最終的な計算結果は37.4となる。

p.99 図A.2の説明

(誤) 最終的な計算結果は79 m<sup>2</sup>となる。(正) 最終的な計算結果は79となる。